

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3393400142		
法人名	社会福祉法人 十字会		
事業所名	十字園第二グループホーム		
所在地	岡山県真庭市下河内2275-2		
自己評価作成日	平成29年 10月 1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiyokansaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kanistrue&amp;KijyosyoCd=3393400142-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaiyokansaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kanistrue&amp;KijyosyoCd=3393400142-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成29年11月7日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

自然に囲まれた立地条件を活用し、四季折々の草花を楽しみながら広い園庭を散歩したり、お花見やお正月準備など季節の行事を取り入れて、利用者の昔ながらの家庭的な生活を営めるよう工夫しています。又、広い畑を活用して、季節の野菜をつくり、敷地内の栗を拾い椎茸かきや草取りをして園庭を管理し日々の生活を楽しんでいます。園内にある、ふれあい館で行われる「おちあいまちかど展覧会」は良い地域交流の場となっています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

法人全体として職員の人材育成や地域交流に取り組んでいる。「福祉は人なり」を念頭に置き、職員研修を充実させている。防災、身体拘束、労働安全、リスクマネジメント等、職員はいずれかに所属し、専門的知識や技術の習得・実践に努めている。職員の定着率も良く、意欲を持って働く職員が多く、利用者の安全・安心な生活の支援に繋がっている。職員間は良好で、職員の気付きや意見を話し合い、連携して取り組む体勢が整っている。管理者も、職員は自発的に考え協力して取り組んでいると評価している。また、行事には地域住民の参加があり、ふれあい館や各施設を訪問してくれるボランティアも多くあり、歌や踊りで楽しませている。地域の人達との交流が図られ、利用者の生活の活性化に結び付いている。ふれあい館は地域に開放され、地域活動の拠点として活用されている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人、グループホームの理念を目につく所に掲示し職員間でも理念を共有し日々の実践に活かしている。	「尊厳」「笑顔」「質の高いサービス」「地域とのふれあい」等、ポイントとなる必要な事柄を謳った理念を大切にしている。朝礼で取り上げ、職員は理念を意識して、日々の支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お花見や納涼祭を同じ敷地内の事業所と合同で開催している。さくらまつりには地域の高齢者を招待してふれあい館で演芸を鑑賞している。落合まちかど展覧会には毎年作品を出品し目的のある活動を行っている。	コーラスや大正琴のボランティアや、祭りの子供神輿の訪問もある。安来節で楽しませてくれるボランティアの訪問もある。普段の暮らしの中でも近所の人との交流があり、冬には道路や周辺の除雪をしてくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	真庭市グループホーム連絡会協議会に参加して、情報交換や、研修参加に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	法人の広報誌「ふれあい」や「グループホームだより」を配布したり、各種行事と一緒に参加してもらい意見をいただき、サービスの向上に活かしている。	高齢者支援課職員、民生委員、地域住民代表、家族等の出席を得て、2ヶ月毎に開催している。行事に合わせて開催することもあり、現状理解と共に、意見や助言をもらうようにしている。	運営推進会議への家族参加を増やす取り組みを検討し、より多くの家族と話し合うことで、サービスの向上に繋げて欲しい。家族の理解と支援が得られる事を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や市内のグループホーム連絡協議会に毎回参加して、情報交換やアドバイスをいただいている。	市職員が運営推進会議に出席し、事業所の実情を理解してくれている。高齢者支援課から相談員も来てくれている。情報を共有しながら、アドバイスをもらい、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の身体拘束0委員会の委員として参加して身体拘束に取り組んでいる。事業所内でもOJTを活用して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修が充実し、職員一人ひとりが意識して取り組んでいる。言葉や態度による抑圧にも気を付けている。気付いたことはその都度、注意を促しているが、職員全員の問題と捉え、会議でも取り上げ話し合い、理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束0推進委員会の委員会や事業所内でも虐待について話合っている。真庭市に依頼して、施設内研修を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度制度を利用されている方、ご家族が金銭管理等を行っている方がおられる。関係者と相談しながら支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約や介護保険の改定時には家族に説明し、その都度同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関の良く見える所に意見箱を設置し面会の際には要望を聞けるようにしている。	生活の様子が良く分かる様に、「グループホームだより」で活動報告をしている。居室の掃除や換気、服装についての要望等があり、家族の意見を受け入れて対応するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議や副主任会議の報告を事業所間でも共有している。	管理者や主任は、職員の意見や提案を良く聞き取っている。残業をなくしたり、業務の段取りを話し合っ決めてたり、働きやすい職場環境を整えるように努めている。管理者会議等で職員の意見を伝え、反映させるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の労働安全衛生委員会に参加し職場環境、条件の整備に努めている。人事制度構築委員会でも検討中である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修委員を中心に年6回程度の研修に参加し事業所内でもOJTを行っている。年数に応じた研修参加の機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会に参加して意見交換や情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には本人の思いを傾聴しながら信頼関係を築くようにしている。不安や要望等に耳を傾けながら安心感を持てるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時にはご家族の困っている事、不安な事を聞かせていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と相談しながら本人に必要な支援方法を考え、出来るだけ本人の環境を変えないような対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る家事(掃除・調理・洗濯干し等)本人の出来る部分を尊重し日常生活を一緒に送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の家族に対しての思いを家族に伝えたり、来園時は車椅子で園庭を散歩しながら会話をされたりと本人と家族の関係を大切にしている。日常の様子は広報誌や「グループホームたより」等でお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の友人や近隣の方などの馴染みの関係が継続できるように支援している。	家族と一緒に外出し、馴染みの美容院に行ったり、墓参りに行ったりしている。外食を楽しむ人もいる。遠方の家族の代わりに近所の人々が訪問してくれることもあり、継続的な交流ができるように働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの様子を把握し、利用者同士の関係にも仲介に入ったり、見守ったりしている。お互い助け合える環境作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に長期入院になったり、施設入所になっても必要に応じて相談や支援ができることを契約時にも説明している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から一人ひとりの思いや意向を聞けるように努めている。聞き取る事が難しい方には日頃の希望を本人本位に検討している。	職員と1対1になる入浴時や夜間の居室で本音を聞き取ることが多い。「家族に連絡して欲しい」と聞き取れば、早急に伝えている。編み物をしたい、音楽を聴きたい等、本人の思いを尊重したマイペースな暮らしを支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に話を聞いたり、在宅のケアマネの情報提供や「人生歴申告書」をご家族に記入してもらっている。情報をもとにこれまでの暮らしを把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の現状の把握をし、職員間で情報の共有ができるよう定期的にカンファレンスをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、アセスメントを作成し、本人、家族等と本人がより良く暮らすために話し合い現状に即したプラン作成をしている。	6ヶ月毎にモニタリングを基に見直している。変化があれば、その都度見直し、家族もカンファレンスに参加してもらっている。職員、家族と話し合い、意見や気付きを反映させるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケース記録を記入し、職員間で情報を共有しながら、個別の対応ができるよう、利用者のニーズにあわせたケア、サービスを検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々柔軟に対応できるように取り組んでいる。本人の状態変化に対応しながら、取り組めるよう家族、本人とも話合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方が慰問に来られ演芸の披露があったり、祭りには子供だんじりが園内くるなど地域との連携ができています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調不良時は日々かかりつけ医との連携を図りながら指示を仰いでいます。受診は本人、家族に希望をききながら受診をしてもらっています。	かかりつけ医の往診が月2回、看護師の訪問が週1回ある。専門科の受診は家族に付き添いをお願いし、状況を記した文書を渡している。家族の都合が悪い時には、職員が付き添い受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護時に日々の様子を相談し利用者の体調管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入退院時には、日頃から協力医、訪問看護師に相談し医療機関との連携を図っている。入院時には「真庭共通シート」を持参し情報提供をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化された方には協力医、本人、家族等と相談しながら、出来るだけホームでの生活が維持できるよう各関係者と一緒に取り組んでいる。	入居時に、事業所としてできる限りの対応について家族に説明している。終末期は医師を交えて話し合い、医療機関や施設を選択してもらっている。看取りの経験はないが、自然な形の対応について医師と話し合い、職員教育を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対策委員会や事業所内でもOJTを行っている。個人ファイルを作成し急変時、事故発生時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所内でも毎月1回の自主訓練を行っている。法人でも年2回の防災訓練を実施し地元の消防団にも協力してもらい、災害対策に備えている。	毎月の訓練で、防災マニュアルを確認し、確実な避難誘導が出来るようにしている。敷地内の他施設からの応援もあり、反省の会議を持ち、改善に向けて話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の不安を減らし穏やかに過ごしてもらえるよう、排泄時、入浴時などは特に自尊心を傷つけないように支援している。	一人ひとりの生活習慣を大切に考え、本人のペースで生活できるように支援している。職員間の申し送りは利用者から離れた場所で行い、居室に入る時はノックや声かけをする等、プライバシーの保護にも気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今まで得意だった活動や日常生活でも思いを自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に沿い自室で過ごされたり、リビングルームで皆さんと過ごしたり一人ひとりが過ごしやすいように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で好きな服が切れるよう、本人と一緒に衣類の整理をしたり、おしゃれができるように本人の思いを聞いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきなどの下準備や片付け等も毎日一緒にしていただいている。園庭で拾った栗の皮をむいたり、干柿をつくったり畑の野菜の使ったり、季節感を持ち食事を楽しめるよう支援している。	管理栄養士によるバランスの良い献立を各ユニットで手作りして提供している。食事を作る音や匂いは五感を刺激し、食欲を増進させている。家庭の味を大切にし、家族のように皆と一緒に食べ、食前・食後の挨拶も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の取りにくい人にはレモン水やゼリーを提供したり、一日の水分量を確保している。法人の管理栄養士が献立をたて、ホームで調理をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員の方に口腔ケアを行っている。又、定期的に入れ歯洗浄剤につけて口腔内の清潔保持をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のパターン、習慣を把握して自立に向けて支援している。できるだけ、トイレでの排泄が継続できるよう支援している。	自尊心に配慮した声掛けや誘導を行っている。ドアの外から声をかけたり、「紙あるかな？」と中の様子を見たりしている。一人ひとりに合わせた自立に向けた支援に取り組んでおり、改善の傾向に向かうこともある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保や飲み物を工夫したり、体操や廊下を歩いて運動したり便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一番風呂を好まれる人には希望にそえるに予定を組んでいる。健康状態を把握しながら、入浴を楽しめるように支援している。冬至には柚子湯をして入浴を楽しんで頂いている。	全身の観察をし、打ち身やかぶれ等の皮膚の異常も早期に見つけ、対処している。希望があれば毎日の入浴もでき、体調の悪い時はシャワー浴にしたり、翌日の入浴にしたり、無理なく本人のペースで入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を把握し、散歩や家事全般を職員と共に夜よく休めるようにしている。眠れないときはフロアで話をきいたり安心出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が服薬内容を理解した上で専用のケースを個人別に分け確実に服薬できたか確認している。臨時の薬などはその後の状態変化に注意し職員間で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	農作業の好きな方には裏畑で季節の野菜作りを一緒にしたり、手作業が出来るように設定したりそれぞれの役割、楽しみのある支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近くの商店に買い物に行ったり、広い園庭に出て椎茸狩りや農作業。栗拾いをしたり季節の移り変わりを感じられるよう支援している。	月に2回、おやつを買いに出かけている。受診のついでに、大型商業施設に衣類を買いに出かけることもある。広い園庭には桜や栗の木があり、畑もある。散歩や草取り等で、日常的に外気に触れる機会も作っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで、返って不安になる方がおられるので小銭程度しか所持していただいでいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から定期的に電話をしていただいたり、字を忘れないよう字を書く練習をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をリビングに飾ったり、寒くなると居間にテーブル式の炬燵をだして利用者同士の会話を楽しんだり、テレビを見たりとそれぞれが居心地良く過ごせるようにしている。	安全で快適に過ごすことができるように配慮している。床の食べこぼしはすぐに掃除し、温度・湿度・換気に気を付けている。季節に合った掲示物や花で季節感を採り入れ、居心地の良い空間作りに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	炬燵に入りゆっくりテレビをみたり、気の合う仲間同士で過ごせるような環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたもので居心地良く安心して過ごせるように自室の工夫をしている。家族の写真や馴染みの物を置いている。	ベッドと大きなクローゼットが備え付けてある。タンス、机、椅子や馴染みの物等を持ち込み、家族と相談しながら家具の配置を決めている。その人らしく落ち着いて過ごせるように、居室作りを検討している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「トイレ」「洗面所」「風呂」などは分かり易く表示してできるだけ自立した生活ができるようにしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393400142		
法人名	社会福祉法人 十字会		
事業所名	十字園第二グループホーム		
所在地	岡山県真庭市下河内2275-2		
自己評価作成日	平成29年 10月 1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kanistrue&amp;JigyosyoCd=3393400142-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kanistrue&amp;JigyosyoCd=3393400142-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成29年11月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた立地条件を活用し、四季折々の草花を楽しみながら広い園庭を散歩したり、お花見やお正月準備など季節の行事を取り入れて、利用者の昔ながらの家庭的な生活を営めるよう工夫しています。又、広い畑を活用して、季節の野菜をつくり、敷地内の栗を拾い椎茸かきや草取りをして園庭を管理し日々の生活を楽しんでいます。園内にある、ふれあい館で行われる「おちあいまちかど展覧会」は良い地域交流の場となっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人、グループホームの理念を目につく所に掲示し職員間でも理念を共有し日々の実践に活かしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お花見や納涼祭を同じ敷地内の事業所と合同で開催している。さくらまつりには地域の高齢者を招待してふれあい館で演芸を鑑賞している。落合まちかど展覧会には毎年作品を出品し目的のある活動を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	真庭市グループホーム連絡会協議会に参加して、情報交換や、研修参加に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	法人の広報誌「ふれあい」や「グループホームだより」を配布したり、各種行事と一緒に参加してもらい意見ををいただき、サービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や市内のグループホーム連絡協議会に毎回参加して、情報交換やアドバイスをいただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の身体拘束0委員会の委員として参加して身体拘束に取り組んでいる。事業所内でもOJTを活用して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束0推進委員会の委員会や事業所内でも虐待について話合っている。真庭市に依頼して、施設内研修を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度制度を利用されている方、ご家族が金銭管理等を行っている方がおられる。関係者と相談しながら支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約や介護保険の改定時には家族に説明し、その都度同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関の良く見える所に意見箱を設置し面会の際には要望を聞けるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議や副主任会議の報告を事業所間でも共有している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の労働安全衛生委員会に参加し職場環境、条件の整備に努めている。人事制度構築委員会でも検討中である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修委員を中心に年6回程度の研修に参加し事業所内でもOJTを行っている。年数に応じた研修参加の機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会に参加して意見交換や情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には本人の思いを傾聴しながら信頼関係を築くようにしている。不安や要望等に耳を傾けながら安心感を持てるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時にはご家族の困っている事、不安な事を聞かせていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と相談しながら本人に必要な支援方法を考え、出来るだけ本人の環境を変えないような対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る家事(掃除・調理・洗濯干し等)本人の出来る部分を尊重し日常生活を一緒に送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の家族に対しての思いを家族に伝えたり、来園時は車椅子で園庭を散歩しながら会話をされたりと本人と家族の関係を大切にしている。日常の様子は広報誌や「グループホームたより」等でお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の友人や近隣の方などの馴染みの関係が継続できるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの様子を把握し、利用者同士の関係にも仲介に入ったり、見守ったりしている。お互い助け合える環境作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に長期入院になったり、施設入所になっても必要に応じて相談や支援ができることを契約時にも説明している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から一人ひとりの思いや意向を聞けるように努めている。聞き取る事が難しい方には日頃の希望を本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に話を聞いたり、在宅のケアマネの情報提供や「人生歴申告書」をご家族に記入してもらっている。情報をもとにこれまでの暮らしを把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の現状の把握をし、職員間で情報の共有ができるよう定期的にカンファレンスをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、アセスメントを作成し、本人、家族等と本人がより良く暮らすために話し合い現状に即したプラン作成をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケース記録を記入し、職員間で情報を共有しながら、個別の対応ができるよう、利用者のニーズにあわせたケア、サービスを検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々柔軟に対応できるように取り組んでいる。本人の状態変化に対応しながら、取り組めるよう家族、本人とも話合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方が慰問に来られ演芸の披露があったり、祭りには子供だんじりが園内くるなど地域との連携ができています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調不良時は日々かかりつけ医との連携を図りながら指示を仰いでいる。受診は本人、家族に希望をききながら受診をしてもらっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護時に日々の様子を相談し利用者の体調管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入退院時には、日頃から協力医、訪問看護師に相談し医療機関との連携を図っている。入院時には「真庭共通シート」を持参し情報提供をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化された方には協力医、本人、家族等と相談しながら、出来るだけホームでの生活が維持できるよう各関係者と一緒に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対策委員会や事業所内でもOJTを行っている。個人ファイルを作成し急変時、事故発生時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所内でも毎月1回の自主訓練を行っている。法人でも年2回の防災訓練を実施し地元の消防団にも協力してもらい、災害対策に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の不安を減らし穏やかに過ごしてもらえるよう、排泄時、入浴時などは特に自尊心を傷つけないように支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今まで得意だった活動や日常生活でも思いを自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に沿い自室で過ごされたり、リビングルームで皆さんと過ごしたり一人ひとりが過ごしやすいように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で好きな服が切れるよう、本人と一緒に衣類の整理をしたり、おしゃれができるように本人の思いを聞いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきなどの下準備や片付け等も毎日一緒にしていただいている。園庭で拾った栗の皮をむいたり、干柿をつくったり畑の野菜の使ったり、季節感を持ち食事を楽しめるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の取りにくい人にはレモン水やゼリーを提供したり、一日の水分量を確保している。法人の管理栄養士が献立をたて、ホームで調理をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員の方に口腔ケアを行っている。又、定期的に入れ歯洗浄剤につけて口腔内の清潔保持をしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のパターン、習慣を把握して自立に向けて支援している。できるだけ、トイレでの排泄が継続できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保や飲み物を工夫したり、体操や廊下を歩いて運動したり便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一番風呂を好まれる人には希望にそえるに予定を組んでいる。健康状態を把握しながら、入浴を楽しめるように支援している。冬至には柚子湯をして入浴を楽しんで頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を把握し、散歩や家事全般を職員と共に行い夜よく休めるようにしている。眠れないときはフロアで話をきいたり安心出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が服薬内容を理解した上で専用のケースを個人別に分け確実に服薬できたか確認している。臨時の薬などはその後の状態変化に注意し職員間で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	農作業の好きな方には裏畑で季節の野菜作りを一緒にしたり、手作業が出来るように設定したりそれぞれの役割、楽しみのある支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近くの商店に買い物に行ったり、広い園庭に出て椎茸狩りや農作業。栗拾いをしたり季節の移り変わりを感じられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで、返って不安になる方がおられるので小銭程度しか所持していただいでいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から定期的に電話をしていただいたり、字を忘れないよう字を書く練習をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をリビングに飾ったり、寒くなると居間にテーブル式の炬燵をだして利用者同士の会話を楽しんだり、テレビを見たりとそれぞれが居心地良く過ごせるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	炬燵に入りゆっくりテレビをみたり、気の合う仲間同士で過ごせるような環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたもので居心地良く安心して過ごせるように自室の工夫をしている。家族の写真や馴染みの物を置いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「トイレ」「洗面所」「風呂」などは分かり易く表示してできるだけ自立した生活ができるようにしている。		